

(様式 1-3)

福島県帰還・移住等環境整備事業計画 帰還・移住等環境整備事業等個票

令和5年4月時点

※本様式は1-2に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	事業名	福島県道路整備事業（原町川俣線）（基金型）	事業番号	(1)-11-4
交付団体	福島県	事業実施主体（直接/間接）	福島県（直接）	
総交付対象事業費	(680,000（千円） 2,347,000（千円）	全体事業費	4,918,000（千円）	
帰還・移住等環境整備に関する目標				
<p>東日本大震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業を回復するため、当該地域の新たな産業基盤の構築を目指す「福島イノベーション・コースト構想」（以下、イノベ構想）は、平成29年5月の「福島復興再生特別措置法の一部改正」により国家プロジェクトとして法定化され、廃炉、ロボット、エネルギー、農林水産等の分野におけるプロジェクトの具体化を進めるとともに、産業集積や人材育成、交流人口の拡大等に取り組んでいる。</p> <p>平成30年4月には、福島復興再生特別措置法に基づき、新産業創出等を重点的に推進するため、福島復興再生基本方針に即して「重点推進計画」が認定され、常磐自動車道のインターチェンジ（以下、IC）から各拠点間を結ぶアクセス道路網の強化を図ることが位置付けられた。</p> <p>南相馬市においては、福島イノベ構想に基づき、無人航空機、災害対応ロボット、水中探査ロボットといった陸・海・空のフィールドロボットの一大開発実証拠点として「福島ロボットテストフィールド（以下、RTF）」を整備し、令和2年3月に全面開所した。</p> <p>しかし、既存道路の県道原町川俣線は、南相馬市の市街地内を通過しており、多くの街路が交差することから信号制御箇所が多く、また、市中心部の主要交差点に右左折箇所があるなど、精密機器の運搬や大型重機の搬送、更には来訪者への案内に支障をきたしている。</p> <p>本事業により、RTFの機能を最大限に発揮するうえで一体不可分となる南相馬ICからの最低限のアクセス機能を確保することにより、各ICからのアクセス強化が完了し、イノベ構想の実現を図るとともに、浜通り地域における自律的な経済復興、さらには世界に誇れる福島復興・創生を目指すものである。</p>				
事業概要				
<p>本事業は、常磐自動車道南相馬ICからRTFへのアクセス機能の確保を目的に道路整備事業L=4.1kmを実施するものである。</p> <p>※当該事業を復興ビジョン、復興計画、復興プラン等に位置付けている場合は、該当箇所及び概要も記載してください</p>				
当面の事業概要				
<p>&lt;令和5年度予定&gt; 調査設計、用地補償、改良工事（本線改良工、跨線橋下部工、新田川橋下部工）等</p> <p>&lt;令和6年度予定&gt; 改良工事（本線改良工、跨線橋上部工製作、新田川橋下部工・上部工製作）等</p> <p>&lt;令和7年度予定&gt; 改良工事（本線改良工、跨線橋上部工架設、新田川橋上部工架設）等</p> <p>※平成31年度～令和3年度に、単年度型（No.164（1）-11-3）を別途実施。</p> <p>→ 測量試験費：事業費82,000千円（国費63,550千円）</p>				
地域の帰還・移住等環境整備との関係				
<p>RTFには、「無人航空機エリア」「水中・水上ロボットエリア」「インフラ点検・災害対応エリア」「開発基盤エリア」が設けられ、水害で冠水した市街地や住宅、ビル、交差点を配置した市街地、トンネル、橋梁などの構造物、災害時の土砂崩落現場などが再現されている。</p> <p>これらの再現フィールドを活用し、RTFでは無人航空機、水中ロボットなどの小型ロボットや土砂崩落現場での無人化施工重機等の研究開発をはじめ、これらのロボットを使用した操縦訓練や市街地フィールドに</p>				

おける障害物撤去、人員の搜索救助などの訓練が行われている。更には、インフラ点検の実習や災害対応の  
実地合同訓練の場としても利用されるなど、今後も多種多様な活用が見込まれている。

当施設の利用者等の実績については、年間約2万人の来訪者があり、ロボットや無人化施工重機などの展  
示会、競技会等のイベントも毎年複数回開催している。令和3年に開催された、世界各国の研究者が競う国  
際競技会「ワールドロボットサミット福島大会」においては、開催3日間で約3,800人の来場があり、これ  
まで開催したイベントの最大数であった。

既存道路の沿線には市役所や小中学校などの公共施設や商店等が隣接しており、これらの競技会や訓練  
の際には、関係車両の集中や大型重機の搬送などが想定され、沿道施設の利用者を含め地域の生活環境の確  
保が課題となっている。

**関連する事業の概要**

**【福島ロボットテストフィールド】**

2018年7月にドローンの長距離走行試験において安全を確保できる機能を持つ「通信塔」の開所を筆頭に、  
2020年3月に全面開所した。

※効果促進事業等である場合には以下の欄を記載。

**関連する基幹事業**

事業番号	
事業名	
交付団体	

**基幹事業との関連性**

--

福島県道路整備事業（原町川俣線） 基金型

第42回申請内訳

内訳・事業位置は別紙のとおり

